

----- (前回からの続き) -----

タイチ「ええ...っと、いいかな？」
チアキ「え、は、はい、いいです」

すぐにでも伝えたいものがある。でも、今はこうしてるだけで嬉しかった。

タイチ「それじゃあ...。画面表示をリダイレクトして、ファイルに保存してみようか。リダイレクトするためのコマンドは別になくて、">"という記号があるだけなんだけどね。ちょっと、やってみようか」

チアキが使っていたキーボードをタイチはひょいと片手で持ち上げて自分のほうへずらした。狭い机の上で斜めになったキーボードにタイチが手早く入力する。やっぱり、経験のある人の打ち方だね。キータイプは速いと言うか手馴れている感じ。キータイピングにちょっとは自信のあるチアキは、タイチのタイピングをそう評価した。

```
C:¥foobar>dir >list.txt  
C:¥foobar>
```

また、だんまりだ。多分、うまくいってるんだろうけど。

チアキ「また、プロンプトだけの黙秘権ですね」
タイチ「はは。面白いこというね。黙秘権か。そうだね。でも、list.txtファイルが作成されているはずだよ。dirコマンドで確かめてみて」

タイチが元の位置に戻したキーボードに、チアキがdirコマンドを軽快に打ち込む。

```
C:¥foobar>dir
```

(略)

```
.          <DIR>          04-04-30  21:03 .  
..         <DIR>          04-04-30  21:03 ..  
LIST      TXT          389  04-04-30  21:14 list.txt  
          1 個              389 バイトのファイルがあります。  
          2 ディレクトリ  4,587.81 メガバイトの空きがあります。
```

チアキ「なるなる。確かにlist.txtファイルができてる。でも、面白いですね。これ。何もしてないのに、何でファイルができるんだろう？」
タイチ「何もしてなくないよ。">"を使って画面の出力をファイルにリダイレクトをしたじゃない。その結果だよ」

チアキ「そうか、確かに389バイトでlist.txtが作成されてる」
タイチ「じゃ、typeコマンドで中身を確認してみてくれる？」
チアキ「はい、やってみます」

タイチの指示に呼応して、スムーズにDOSコマンドを入力していくチアキの姿は二人三脚のパートナーのように思えた。それは前にも感じた感覚だった。

```
C:¥foobar>type list.txt
```

```
ドライブ C: のボリュームラベルは WINDOWS 98  
ボリュームシリアル番号は 1471-12D6  
ディレクトリは C:¥foobar
```

```
.          <DIR>          04-04-30  21:03 .  
..         <DIR>          04-04-30  21:03 ..  
LIST      TXT          0 04-04-30  21:14 list.txt  
          1 個          0 バイトのファイルがあります。  
          2 ディレクトリ 4,587.81 メガバイトの空きがあります。
```

チアキ「あ、あれ？打ち間違えたかな？」

画面には同じようなものが、二つ表示されている。焦って、もう一度コマンドを入力しようとするチアキを制するようにタイチが言った。

タイチ「だよ。戸惑うでしょ。でも、あってるよ。一番目の表示はdirコマンドが直接画面に表示したもので、二番目はその表示をそっくりそのままファイルに記録して、改めて内容を表示したものなんだ」

チアキ「ええっ？」

チアキは画面とにらめっこを始めた。数十秒、画面を見つめながら、ぶつぶつ言っていたチアキが声をあげた。

チアキ「あっ！よく見るとlist.txtのファイルサイズが0になってる！」
タイチ「いいところに気がついたね。とにかく、混乱してきたらWindowsでfoobarフォルダの中にあるlist.txtを開いてごらん。理解できるよ」

チアキは言われるままに、Windowsでlist.txtをダブルクリックして、メモ帳で開いてみた。メモ帳にはDOSの画面と同じものが表示された。

タイチ「これが標準出力をリダイレクトするってことなんだ。わかったかな」
チアキ「はい！...でも、何となくですけど」

でも、一体これがなんの役に立つのかしら。チアキは疑問に思ったが、次を言いたそうにしているタイチ先輩を見て、そのまま流れに任せることにした。

タイチ「逆に標準入力のリダイレクトも存在するんだ。DOSで日付を変える
コマンドにdateコマンドがあるから、dateコマンドを入力してみて。
"date"だけ入力すればいいよ」

言われるままにチアキは"date"と入力してみた。Windowsのようにメニュー
があるわけじゃないDOSの場合、タイチの口からポンポンと出てくるコマン
ドは魔法の言葉のよう思えた。

一体全体、コマンドってどれだけあるのかしら。全部覚えるのは大変そうだ
わ。まあ、まずは一步一步ってことね。チアキはDOSの画面に集中した。

```
C:¥foobar>date
現在の日付は 2004-04-30 (金)
日付を入力してください(年-月-日):
```

カーソルが:の後で点滅している。えっ、この日付って今日？チアキは腕時
計で確認しようとしたがデイト機能がないことに気づいて、開発ルームのカ
レンダーを探した。今日は納品日だったから大きく が書かれている。同じ
だ。DOSで日付がわかるんだ！ちっちゃいことだけど得した気分になるチア
キだった。

でも、タイチにとってdateは何百回と打ったコマンドなのか、いたって冷静
に言った。

タイチ「さてと、カーソルが年月日の後で点滅しているよね。OSによっては
若干表示が異なるんだけど、これは日付を変えるつもりなら入力し
てくださいとDOSが言っているんだ。それじゃ、日付を1999-12-31
とキーボードから入力して、日付を過去にしてみようか」
チアキ「カーソルのところに、"1999-12-31"って入力すればいいんですか？」

黙ってうなづくタイチに、そのまま入力してエンターキーを押すチアキ。

```
C:¥foobar>date
現在の日付は 2004-04-30 (金)
日付を入力してください(年-月-日): 1999-12-31
C:¥foobar>
```

例のごとくプロンプトが出ているだけで、それ以外は何も表示しない。確かに
DOSは難しいし、それなりの歴史があるんだろうけど、不親切な感じがす
るのは私だけなのかなあ。

タイチ「プロンプトが表示されたら、再度、dateコマンドを入力してみて」

```
C:¥foobar>date
```

現在の日付は 1999-12-31 (金)

日付を入力してください(年-月-日):

チアキ「あ、変わってる！凄いつ。DOSで日付を変えちゃった！」

タイチ「今回は日付の確認だけなので、カーソルが点滅しているところで日付を入力せずにエンターキーだけを入力して」

チアキ「はい！」

タイチ先輩の話の持っていきようが上手いからか、自分の知らないことが続々出てくるからか、こうやって二人でDOSを勉強しているうちに、ちょっと、元気が出てきた。

タイチ「じゃあ、今度はキーボードから数字を入力しないで、今やったことと同じことをやってみようか」

チアキ「えっ！そんなことができるんですか?!」

チアキにはタイチが何を言っているのかわからなかった。変わるわけがないじゃない！Windowsだってマウスをクリックして日付を変えるんだから。まさか、DOSでマウスが使えるとか言うんじゃない？そんなふうに、チアキが悩んでいる様子を見て、タイチが言った。

タイチ「標準入力のリダイレクトを使うんだよ。Windowsでfoobarフォルダにdate.txtというファイルを作って、その中に今日の日付を入力してからファイルを保存してみて」

よかった...マウスですか？って聞かなくて。タイチの言うまま、チアキはメモ帳を開いて、一行目に"2004-04-30"と入力した。

タイチ「半角で打ってるよね。それじゃ、最後に改行は入れておいて」

チアキはファイルをdate.txtとして¥foobarフォルダに保存した。

タイチ「DOSに戻って、dirを取ってみて」

チアキはdirと聞く前にタイプし始めていた。DOSでファイルを確認するのが習慣化した証拠だとタイチは思った。でも、さすが上達が早い。

```
C:¥foobar>dir
```

(略)

```
.          <DIR>          04-04-30  21:03 .  
..         <DIR>          04-04-30  21:03 ..  
LIST      TXT          0  04-04-30  21:14 list.txt
```

```
DATE      TXT          12  99-12-31  21:32 date.txt
          2 個          401 バイトのファイルがあります。
          2 ディレクトリ 4,583.78 メガバイトの空きがあります。
```

タイチ「じゃあ、標準入力をリダイレクトして、日付を今日の日付に戻してみね。標準入力リダイレクトに対応するコマンドも別になくなって"<"記号を使用するんだ。こうやって、入力してみて」

今度、タイチはリダイレクトを自分ではやらずに、チアキにやらせようとしていた。チアキがいつも使うノートに次のように一行記した。

```
date <date.txt
```

チアキはタイチが書き終わるのを待って、じっとその式らしきものを見つめた。ヘンテコな感じ。これが何を変えるって言うの？日付？まさかぁと思いつながらチアキは"data <data.txt"とタイチの書いたままに入力した。

```
C:\foobar>date <date.txt
現在の日付は 1999-12-31 (金)
日付を入力してください(年-月-日): 2004-04-30
C:\foobar>
```

DOSの画面には今日の日付に変更されている様子が表示されていた。エッ！本当に？！テキストファイルの内容を読み取ったって言うの？どうして、こんなことできるわけ？

タイチ「すぐにC:\foobar>プロンプトが出てきたよね。日付もファイルで用意した日付が自動的に入ってるでしょ。dateコマンドで確認してみて。2004-04-30に変わっているはずだから」

```
C:\foobar>date
現在の日付は 2004-04-30 (金)
日付を入力してください(年-月-日): 2004-04-30
```

あ、本当に日付が変わってる。え？これってなに？ファイルの中身に従って日付が変えられるってこと？仕組みは？これって、プログラム？コマンド？チアキは自分が何に驚いているのかすら、まとめられないでいた。やっと、考えついた質問がこれだった。

チアキ「どうして、こうなるんですか？」

タイチ「それが、リダイレクトってものだからさ。ただし、どういうメカニズムでリダイレクトを実現しているのかという質問だとしたら、今はまだ早いとしか言えないな。でも、そんなことよりもリダイレクトのやり方と考え方を理解するほうがはるかに重要だと思うよ」

チアキ「...」

チアキはタイチが書いた図や自分が入力したコマンドの履歴を眺めながら、それぞれの意味を賢明に繋ぎ合わせて考えていた。

チアキ「リダイレクトって、多分、英語でredirectってとですよ。つまり方向変換ってことですか？」

タイチ「そうだね」

チアキ「すると、本当は画面に出力されるはずだったものが方向転換されてファイルに保存されるってことですか？」

タイチ「そうそう」

チアキ「すると、最後の例って、本当はキーボードから入力されるはずだったデータが方向転換されてファイルから入力されたってことなんですか？」

タイチ「その理解であってるよ」

チアキ「それって、線路の切替みたい！」

タイチ「良い例えだね。要は、dateってコマンドは、データが何処から入ってきたかわからないし、データが何処に行くかもわからないってことなんだ。何処からと何処へをコントロールするのが">"や"<"って記号なんだよ。チアキちゃんの解釈だと線路の切り替えが行なわれたかどうかをdateコマンドが知ることはできないってことになる。まるで線路が切り替えられたことに列車が気付かないように」

チアキ「なるほどお...」

なるなる。少し理解できてきたわ。でも、このリダイレクトって、どういう仕組みなの？タイチ先輩は今理解する必要ないって言ったけど、もしそうだとすると、それじゃ、このリダイレクトって、どういう役に立つのよ。気になるのよね、知らなくていいと言われると余計に...。うーん。

タイチ「...ちゃん！...チアキちゃん！集中してるみたいだけど、もう遅くなったから帰ろうか、雨も降ってるみたいだし」

はっと気づくともう22時を過ぎていた。軽く机の後始末をして、タイチがパソコンの電源を切るとうるさかった冷却ファンの音が消えた。とっくに誰もいなくなっていた開発ルームに、窓ガラスを叩く雨の音だけが響いていた。

チアキ「あの、す、すみません。勝手に押しかけてしまって...」

タイチ「いいよ。気にしないで、チアキちゃんの元気が嬉しかったしね」

*

傘を差して歩く二人の距離感はちょうど、今の二人の距離と同じみたい。傘さえなければもっと近くに感じられるのに...。駅に向かう途中、チアキはアキコの転職の話をした。タイチはある程度、予測していたのか、驚きも

せずに丁寧に経過を説明してくれた。敢えて引き抜きと言う言葉を使わなかったが、アキコの相談にのっていたこと、自分もその経験から参考になればと必要なことを伝えたこと、アキコはアキコで思い悩み辛いこともあるだろうことを話した。そして、タイチはしみじみとまるで自分自身に話し掛けるように続けた。

タイチ「ポリシーって曲げたらだめだと思うんだ。水口さんはその点はしっかりしている。そりゃ、僕とはよく衝突するけど向かう方向は同じなんだよ。それは彼女もわかっていると思う。僕が元いた会社でも衝突はしょっちゅうだったけど、二人とも妥協はしなかったし、遅くまで議論したこともあったよ。よりよい仕事の仕方とか組織って何かってね。そして、彼女は僕の元いた会社に残って、二人で向かおうとしたことを実現しようとして努力していたんだ。一人でね。気丈な人だよ」

タイチの顔は傘に隠れて見えない。チアキはタイチの言葉をそのまま信じることにしたけれど、割り切れないものは残った。アキコさんの、あの泣いて...

駅に向かう道でタイチと別れる頃には、雨はいつの間にか小降りになっていた。プラットホームから雨空を見上げるチアキ。誰にも同じように雨は降ってるんだ...

----- (つづく) -----